

80. 南田辺法界地蔵

「法界」とは、境を知らせるとの意で、道しるべのことです。

この地蔵尊は、昔より道に迷う人の為に道を教え、現在では、悩める人の人生を示す道標となり、家内安全・交通安全を祈る人々を守るといわれ、信仰を集めています。（立て看板より）

昭和の終わり頃までは、山阪神社東の鳥居前を、南へ 20m ほど行ったところの三つ辻の北東角の三角の土地に祀られていましたが、土地の所有者が変わり、マンションが建ち、宗教的な問題から移転を要請され、町会として移転先を探し、もとの場所から南へ約 100m の場所に移転しました。しかしここも安住の地でなく、平成 30 年（2018 年）法樂寺が引き受け法樂寺西横の駐車場に愛和地蔵と並んで祀られています。



81. 模擬原子爆弾投下跡地之碑

終戦間近の昭和 20 年（1945 年）8 月 6 日広島に人類史上初の原子爆弾が投下されました。その 11 日前の 7 月 26 日午前 9 時 26 分大阪市東住吉区田辺 2-3（現在の田辺小学校北側）に大きな爆弾が投下されました、大阪市が作った「昭和 20 年大阪市戦災概観」という資料には死者 7 人、重軽傷者 73 人、焼失倒壊戸数 485 戸、罹災者 1645 人とその爆弾による被害が記録されています。

実はこれは模擬原爆という特別な爆弾でした。模擬原爆というのは長崎に落とされたプルトニウム原爆（ファットマン）と同じ型、大きさ、重さで、中身が TNT 火薬の約 5 トンの爆弾です。ずんぐりした型で黄色い色彩からパンプキンと呼ばれました。

米軍は終戦近い 7 月 20 日から日本各地への空襲に紛れて模擬原爆を 49 発も投下しました。模擬原子爆弾による被害は死者 400 名、負傷者 1200 名を越えると記録されています。



なぜ模擬原爆が慌ただしく投下されたのか。原爆を投下するには技術が必要でした。目視で原爆を目標地点に投下する。投下とともに自らの機体が被爆しないように急旋回させる。それも B29 という巨大な爆撃機をです。当時完成したばかりの実物の原爆は 3 発しかなく、それを想定通り実戦投下するためには訓練が必要でした。その訓練用爆弾が模擬原爆だったのです。

模擬原爆の存在が歴史の明るみになったのは戦後の平成 3 年（1991 年）です。愛知県春日井市の市民グループが国会図書にあった米軍資料から模擬原爆の投下場所の一覧表や地図を見つけました。模擬原爆の事実を解明してゆくと人類最悪の兵器原爆がどのような意図で使用されたかが見えてきます。

模擬原爆追悼碑は令和元年（2019 年）5 月末マンション建設に伴い恩楽寺（田辺 1-14-18）山門に移設されました。恩楽寺本堂も模擬原爆の爆風で傾いた被災モニュメントです。毎年 7 月 26 日の投下時間に碑の前で追悼式が行われます。

82. 市バス矢田終点付近の今昔



協倉庫間の奥(西方向)に森が見えますが、森は伐採され、この東側あった池も埋立てられて、幼稚園と公園になっており、池とバス停間の田畑には多くの建物が建造され、昔の面影は全くありません。当バス停と西田辺間をつなぐ南北のバス路線(54系)は現在では、東住吉区役所や行基大橋、大阪メトロ西田辺駅、あびこ駅などを走る路線に替わっています。また、近鉄矢田駅を西方向に赤バスも走っていました。

写真左側にパーマ フクダ美容店の看板が見えますが、経営者の子息・福田大作氏が現在も当地にお住まいで、写真が撮影された昭和 34 年(1959 年)には 17 才であったので、よく覚えておられました。現在の矢田 4 丁目 3 が福田家で、その向かい写真右側(北側)が 4 丁目 4 の市バス 54 系の矢田終点であった場所です。バス停留所の後(西)側の大きな建物は農協倉庫で、現在はバス停留所と倉庫の用地を 1 つにして住宅が建てられ、東向きの建物は喫茶ファミリーとなって、バス停当時の様子を知る人は少なくなっています。

福田家の北側を東西に流れていた細い川は生活排水溝で、現在は下水管に替えられて、道路の一部になっているようです。福田家と農



昭和 34 年市バス矢田終点付近 (建物は農協倉庫)

83. 山阪神社



山阪明神または田辺神社とも、いわれていました。

田辺氏は、元来、西国から移動した渡来系氏族で、現在の柏原市に拠点を持ち大いに栄えた一族であり、その分家がこの地に移住して、自らの祖先神を祀ったとされます。

この地名・田辺も田辺氏に由来するとされています。

神社創建の時期は不明ですが、主祭神は天穗日命(アマノホヒノミコト)(※1)で、野見宿禰命(ノミノスクネノミコト)(※2)も祀っています。

田辺氏と同系の土師氏の祖先神が野見宿禰命で、天穗日尊の子孫とされていることに因んでいるとも思われます。

三代実録(※3)の「清和帝貞観(ジョウガン)4年(862年)8月11日条田辺西神、田辺東神に従五位を授けた」ことが記録されており、田辺西神は当社を、東神は中井神社を示すものとされています。

元禄16年(1703年)の検地帳によれば、境内地は約30,000㎡にも及び、神社の本殿は前方後円墳の後円部に創建されているとみられています。



東住吉 100 物語

現場をみると、前方部が西側の遊園地に当たる東西方向の前方後円墳に見えてきますが、埴輪や葺石という当時の墓制に特有な付属物が出土していないので、何とも言えません。

土師氏が弓部の十六人を率い神功皇后に従い三韓に渡り偉功があり、凱旋後に摂津住吉神社創立と共に、この地に邸宅を賜り、梅園惟朝(ウメゾノコレトモ)と称しました。

住吉松葉大記によると、大海(オオワタズミ)、大依羅(オオヨサミ)、開口(アグチ)、座摩(イカスリ)、生国魂(イククニタマ)の末社群の上位に位置されたので、当社が住吉大社により、大変重視されていたと考えられます。

住吉大社の神馬の飼育も田辺氏に任されていた理由もうなずけます。

当社の祭儀もこの頃より梅園氏によって行なわれ、その同族にして配下の田辺宮主即ち禰宜長ならびに舍人よりなる宮座によって奉仕されたのであります。

9月朔日の例祭には、当社および田辺東ノ神(中井神社)の祭儀には梅園氏が親しく奉仕し、ことに禰宜長以下の宮座は当社に奉仕すると共に、住吉神社の神馬を飼養し日々住吉神社へ曳くを例とするようになり、当社の宮座は住吉神社との間に古くより特殊な交渉があったものと考えられます。

※1 天穗日命

古事記の名称(天之菩卑能命)から判断すると、すべてに秀でた神様となります。出雲の国譲り(今で言う吸収合併)の交渉役選ばれて、九州の本部(高天原)から派遣されたが、大国主命に心服して、3年間も服命しなかった人。当世向きの平和主義の神様と言えます。

※2 野見宿禰命

日本書紀の垂仁天皇7年秋7月条に書かれている人で、当麻蹶速(タイマノケハヤ)が相手の生死を問わず荒っぽい相撲振りを誇示したので、天皇が全国から対向者を募り、出雲から野見宿弥が召喚されて対戦し、蹶速を蹴り殺してしまう。野見宿弥は褒美として当麻蹶速の土地を戴き、当麻に留まる。御陵建設等の技術集団である土師氏は、彼を始祖としている。菅原道真も土師氏の末裔です。

※3 日本三代実録

清和、陽成、光孝の3代天皇の時期に関する国史書です。

天安2年(858年)8月から仁和3年(887年)8月までの30年間を記録しています。

編者は藤原時平、菅原道真、大蔵善行、三統理平で、延喜元年(901年)に撰上されたが、時すでに律令制度が崩壊し、天皇家にとって懐古的な歴史書となった、六国史の最後の国史書です。

84. 大和川の今池遺跡

宝永元年（1704 年）の大和川の付替え工事において、柏原～堺の 14.5km を僅か 8 ヶ月の短期間で完成することが出来たのは、平地に堤を構築し、開削したのは浅香山と瓜破地域のみであったからとされています。

そのような理由から、大和川の敷設場所に当たった今池地区から旧石器時代から近世に至る生活の痕跡を残している遺跡が大和川の左岸付近から発掘されています。

この遺跡から、難波宮と大津道を結ぶ一直線の古代道路（難波大道）が敷設されていたことが確認されました。

朱雀門跡が大阪市立聾学校校庭内から出土し、これを基点として、地図上をまっすぐ南下すると、天王寺の教育大学東側（この辺りに「大道」の地名が残っています）と、田辺法楽寺（No. 76）の西部や山阪神社（No. 83）の東部を経て、今池の出土場所までは、完全な 1 直線で結ぶことができます。

上：昭和 30 年代（1955 年～1964 年）の大和川航空写真

下：今池遺跡の発掘現場全景



85. 大和川スーパー堤防

スーパー堤防整備事業は、通常の土地利用を行うことを前提に、川沿いの土地に土を盛りかさ上げすることによって、堤防の高さの30倍程度の幅の広い堤防を作る事業です。

災害に対する安全性を確保できるだけでなく、環境と調和した快適なまちづくりに大きく貢献します。

大阪・東京周辺を流れる大和川・淀川・利根川・荒川・江戸川・多摩川の6河川の重要区間において、計画されており、東住吉では、大阪市営矢田住道第2住宅1号館と「ラスパ大阪」の部分で事業が行われています。



86. 友愛センター北田辺

明治の頃、北田辺村を東西に通じていた街道（大正時代の「庚申街道」）に面して村の青年会の集会場として、「北田辺青年団会館」が建てられていました。

戦後の昭和 38 年（1963 年）、老朽化してきたので大阪市に寄付し、地域青少年の健全な育成の活動拠点として「北田辺ユースセンター」に改築され、名付けられました。

平成 15 年（2003 年）にはこれも老朽化し、その存在意義を果たしたので改築し、現在の「友愛センター 北田辺」と改称されて、地域の福祉活動の場として、活用されています。



87. 湯里住吉神社

東住吉区湯里にあります。創建年代は不明です。豊臣秀吉によって行われた太閤見地帳では除地と記載されていて神社地として免租されていたようです。

元々この地は摂津国住吉郡富田（とんだ）荘といわれ中臣須牟地神社を氏神としていました。当時、中臣須牟地神社は湯里住吉神社の南方300メートルほどの天神山という丘の麓（現在の矢田北小学校のあたり）にありました。ところが富田荘が分割され中臣須牟地神社がある地域が河内国丹比郡に編入されました。氏神をなくした摂津国側は中臣須牟地神社の祭神で住吉大社の神の一つである中筒男命（なかつつのおのみこと）を分けてもらい新たな神社を建てました。

これが湯里住吉神社で当初は須牟寺神社又は住吉神社二の宮と呼ばれていました。明治になって現在の神社名になりました。境内は狭いながら樹木が繁り住吉造りの社殿とともに神域を醸しています。



88. 曹洞宗含松山臨南寺

以前は、国鉄（JR の前身）が臨南寺を駅名とした程の広大な（33,000 m²）森を有する禅寺（曹洞宗）です。

現在は森林の大部分は姿を消しましたが、楠や椿・山茶花・金木犀等の樹木が僅かに残り、当時の面影を留めています。

境内には樹齢 700 年の椎の大木がありましたが、昭和 25 年（1950 年）のジェーン台風で倒れてしまいました。今は万代池に住む白蛇と夫婦か兄弟の関係にあると云われた白蛇（※）が宿る神木として地上に横たえられ、現在も祀られています。

本堂内には、ご本尊・釋迦牟尼佛座像、弁財天なども祀られ、また、山門前に「葦酒山門入るを許さず」の石碑やその奥に馬頭観音碑があります。

大坂代官と天草代官を歴任した鈴木重成が、先祖を弔うために、宇治の琴坂で有名な興聖寺 5 世の名僧・萬安英種（バンナンエイシュ）を招いて、正保 2 年（1645 年）この地に建立しました。

現在は葬儀会館や永代供養の合同墓のがっしょう園マトリもあり、見学もできます。天井を覆っている金色の曼陀羅を觀賞して下さい。

※白蛇

緑色の皮下色素が退化した奇形種の青大将で、その数が少ない処から珍しく神聖化されたものと思われます。白蛇を祭神とする神社（中井神社（No. 56）など）は結構あります。



89. 桑津カイコものがたり



「 あっ、繭になっている ! 」

カイコの変身に驚きの歓声をあげる子どもたち。牛乳パック等を利用して、毛蚕（けご）から自分のカイコを育てます。繭から生糸をとったり、飾り物を作ったりもします。

子どもたちがカイコを育てるのは、その地名に由来しています。

桑の木が多く、津（港）があったことから地域の名前が「桑津」と言われるようになったと伝えられています。現在では、駒川や今川沿いに沢山あった桑の木もほとんど見られなくなりました。

学校校庭東隅に、とても大きな桑の木が一本あります。校舎増改築の際には、設計に配慮してこの桑の木を存続させました。

桑の葉は、カイコたちの大切な命の源だからです。

『日本書記』によると、応神天皇(四世紀)の頃、日向の国(今の宮崎県)からこの地に来た髪長媛(かみながひめ)は、美女の誉れ高く、のちに仁徳天皇の妃になったといわれています。また、桑津天神社(No. 30)の伝承では桑の木を植えて、蚕を飼い、生糸をとって織物を作ったとされ、境内の八幡宮に奉納されています。



90. 晩年の坂田三吉



晩年の坂田（阪田）三吉 舳松（へのまつ）人権歴史館 提供

『吹けば飛ぶよな 将棋の駒に 賭けた命を 笑わば笑え』
村田英雄の歌う「王将」で有名な坂田（阪田）三吉と言えば、

豊中服部は、勝負人が削ります。

坂田三吉年))、大



あと吹田市に移り、昭和 18 年（1943 年）に東
まり知られていません。ここは、三女の方の
坂田三吉はこの場所で、終戦（昭和 20 年（1945
終戦翌年、昭和 21 年（1946 年）当時の新聞に
〔坂田 三吉（八段）昭和 21 年（1946 年）7 月
辺東之町 3 丁目 23 の自宅で死去。77 歳。〕

関西を代表する有名な将棋の名人

霊園にある将棋の駒形をした墓石
師坂田にあやかろうとする心無い
取ったと思われる跡が残っていま

が堺市に生まれ（明治 3 年（1870
正時代は天王寺区伶人町で暮らし
とはよく知られていますが、この
住吉区に転居してきたことは、あ
住まいに近かったようです。
年)) を迎えています。

は下記の記事が掲載されています。
23 日午後 3 時、大阪市東住吉区田

（画像説明）当時の地図で、場所の見当をつけてみました。（左記 赤印のあたり）

晩年の坂田三吉が、田辺に落とされた「模擬原子爆弾」に肝をひやしたり、晴れた日にはすぐ近くにある樹齢 300 年の「北田辺の大楠」あたりを杖をつきながらゆっくり散歩したりしたのではないかと、思いをはせています。

91. クラインガルテン広場

東住吉区クラインガルテン広場事業は、区民と行政が協働して取り組み「花づくり・野菜づくりを通じた”まちづくり”」の活動拠点とした地域コミュニティの活性化を図る広場です。

クラインガルテンとはドイツ語で「小さな庭」を意味し、施設の建設を行政が、管理運営を市民が行う地域農園をさします。単に農作物の栽培を行うだけではなく、都市部における緑地の確保や地域コミュニティの場としての機能を持ちます。

平成 21 年（2009 年）4 月、東住吉区矢田 1 丁目に敷地面積：約 990 平方メートルの広場が完成し、区民ボランティア「クラインガルテン・東住吉」が広場の管理運営を行っています。

緑あふれる区の実現、事業を通じたコミュニティの形成を目的として、「クラインガルテン・東住吉」メンバーによる広場での活動を中心に花と野菜の育成や、育成した花や野菜を通じた緑化活動や公共施設への提供などを行っています。

大阪市の花づくりやさいづくりを通じた「まちづくり」モデルとして、内外の団体見学や新聞・TV 報道や雑誌の掲載等で話題を賑わせています。

また、広場では年間を通じて様々なイベントを開催しており、

- 1) 春と秋にクラインガルテンまつりを開催し、花摘み体験や花苗プレゼント、寄せ植え講習会・いもほり体験会とリースづくり等を企画し、多くの市民が広場に来場され楽しんでいただいています。
- 2) やさいづくり体験塾や寄せ植え等各種講習会を募集し、花や緑とふれあう場を提供し地域との交流をしています。

毎月第 4 日曜日の午前中を一般開放日としていますのでお待ちしております。



92. 長寿橋

西今川 4 丁目の南東、今川に面した東西 130m、南北 100m の一画には、戦前「長寿園」と呼ばれていた住宅地がありました。この住宅地の名付け親で開発を行った実業家は初代のミス日本に選ばれたことで有名な女優の山本富士子さんのおじいさんです。

昭和 9 年（1934 年）頃にはこの地で住宅開発を行い、社員に優先分譲されたそうです。

最初はこの住宅地の中心部には児童公園がありました。そして住宅地の正面には幅と奥行きが 60cm、高さが 3m もある竜山石の碑を 2 本も建て、大きな文字で「長寿園」と彫られていました。竜山石は山本さんの郷里から取り寄せられたもののようです。

住宅地は戦後の財産税の為に、山本家が手放し、児童公園も分譲住宅とされて、立派な石碑も姿を消しました。生まれ育った人達はその石碑の行方を捜しましたが、いまだ手掛かりがありません。

ところが嬉しいことに、もと「長寿園」の東南隅にある今川に掛かる橋の名前が「長寿橋」とあり、今でもその名が残されています。



石碑の代わりに橋の名柱に名が残ります

93. 庚申街道

庚申街道は四天王寺南大門から約 100mほど南下した、庚申堂（四天王寺庚申堂）を過ぎ東南方へ蛇行しながら文の里を通り、桃ヶ池の北端で東に折れ、旧北田辺村の北辺（この通り）を横断、さらに東へ駒川を越え今川で川沿いを南下、針中野（旧中野村）、湯里（旧湯谷嶋村）、旧住道村を過ぎ、大和川に突き当たると川沿いに東へ古市街道と出合う明治橋北詰（旧川辺村）にいたるという街道です。

江戸時代の北田辺村は、大坂の近郊農村で木綿や田辺大根などの生産地でしたが、庚申街道は四天王寺や庚申参りする信仰の道であるとともに、日常的には牛馬車を使って農作物や肥料の運搬に利用されていました。

街道の名前となる庚申信仰は、中国の道教に由来し、六十日毎の庚申（かのえさる）の日の夜、体内に住む三尸（さんし）の虫が抜け出し、その人の罪業を天帝に告げ、天帝は報告によってその人の寿命を決めるといわれ、三尸の虫の行動を封じることで広まった信仰です。

庚申堂は三尸の虫を押さえる青面金剛童子（しょうめんこんごうどうじ）を祀ります。庚申堂の縁起では、飛鳥時代、疫病が流行り高僧が祈ったところ、庚申の年の正月 7 日庚申の刻に青面金剛童子が現れ、祀ると疫病が退散したということから庚申の日に青面金剛童子に祈れば願いがかなうという信仰がはじまりました。

（次ページにつづく）

東住吉 100 物語



北田辺 5 丁目で庚申街道と下高野街道が交差しています。
画像は庚申街道から東に向いて交差点を撮影しています。



北田辺 6 丁目には地元の有志による庚申街道の由緒などを書いた
記念碑があります。

94. 平野白鷺公園

所在地番：東住吉区今川 6 丁目 7 番地, 8 番地

アクセス：大阪シティーバス白鷺公園前下車東 200m（系統 5, 6, 73）、近鉄南大阪線下車東へ 700m

地下鉄谷町線駒川中野駅下車平野方向へ東 0.7 km 中野中学東北角を左へ 0.5 km

面積：37,065 m²

公園の由来：平野白鷺公園は平野土地区画整理組合の区画整理事業により公園用地として留保し、大阪市に提供した土地の中から市が設置したものです。



◎所属行政区の変遷

設置時期

昭和 14 年（1939 年）4 月 1 日開園。開園当初は、住吉区に属していました。

昭和 18 年（1943 年）住吉区から阿倍野区・東住吉区が分区して、平野白鷺公園は東住吉区に属しました。

昭和 25 年（1950 年）長居公園（種類：運動公園）が東住吉区に設置されました。

それまで東住吉区には児童公園（酒君塚・駒川・中野・鷹合）公園は存在したが、白鷺公園は普通公園として唯一、しかも区内最大の公園でした。

昭和 49 年（1974 年）東住吉区から平野区が分区して、平野白鷺公園は東住吉区に属しました。

（次ページにつづ

く）

東住吉 100 物語

◎現在の公園の状況 令和元年（2019 年）12 月

公園のほぼ中央を南北に貫く巾 8m の道路で、東園と西園の二つに分割されています。

西園にはグラウンド 2 面・ベンチ・夜間照明設備がある。東園には中央に児童遊園地として、ブランコ大小・コンクリートの小山・砂場・雲梯・梯子等が設置され、そのまわりを、イベント会場・ゲートボール場・六つのブロックに分けて各地区の小学生が楠の植樹・管理を担当して来た“子供の森”が取り囲む。更にその外側に、一周 387m ジョギングコースが設けられています。

楠樹林の 1 部は櫻樹林に替っているが、その他の空き地には、公孫樹（イチヨウ）・プラタナス・梅檀（センダン）・もくこくその他種々の樹木が植えられ花壇もあります。その他 飲水場・トイレ・公衆電話ボックス・ベンチ・あずまや・夜間照明・阪神震災鎮魂植樹碑など。当初の記録にあった国旗掲揚台・藤棚は現在見あたりません。

◎公園の周辺・設置当時の状況・風景

白鷺公園は、町会の運動会、ラジオ体操等地域の行事に大いに使われ、その頃の区民の生活に溶け込んでいたと思う。防空の訓練にも使われた。白鷺公園が開園した昭和 14 年（1939 年）頃のこの地区の様子は、今川の漆堤から東は大念仏寺まで、1Km 余り見渡す限り水田であった。水田には、毎朝、白鷺（仁徳天皇陵などに生息する）が飛来して、餌を啄み、夕方には、数羽ずつが、雁行をなして、つぎつぎと南西の方向に帰っていった。その光景は、昭和 30 年（1955 年）頃まで見られた懐かしい長閑（のどか）な情景であった。今はごく稀に 1～2 羽の白鷺が、川の小魚を獲りに来るのだろうか、飛び立つのを見かけることがある。

戦時中は食糧難から、カルシウムの補給源としてイナゴ取りをした。イナゴは網や手で捕獲すると、腹から背にむかって針で糸を通し、持ち帰って暫く干してから、焼いて粉にしたり佃煮にして食した。意外と美味しかったように思う。

当時、今川（漆堤）の西側は既に宅地化が進んでいたが、東側は水田地帯であったから、春には見渡す限り

ピンクの蓮華草（レンゲ）の絨毯となる。堤は、絶好の凧上げ場所で、西風を背に受けて、いくらでも糸を伸ばして空高く揚げられた。休日には、子供も大人も一緒になって凧上げに夢中になった。

夏には、やんま、塩辛とんぼを追い、昼は蝉の声、夜には食用ガエル（別名牛ガエル）の声（牛に似た声）が響き渡る。秋には蟋蟀（コオロギ）、鈴虫の声、漆堤の紅葉など季節感満点の場所であった。

白鷺公園はこの様な野原のド真ん中であって、大人・子供・家族、皆が安心して寛げる場所であった。

ただ、日が暮れると、真っ暗で、「追い剥ぎが出る」と言われる物騒な場所でもあった。

余談ですが、

その頃の田畑には野壺（人糞を肥料として溜めておく穴）が各所の田畑の角や縁にあり、子供が凧上げに夢中になって、野壺にはまる事故があるので、大人も注意する必要があった。